

第Ⅲ部

グローバル人材の育成

シアトル語学研修 (令和7年7月20日～28日)

シアトル研修を経て

Memories of Seattle ! ①

ついに到着した
シアトル！！
晴天に見舞われ
最高のスタートと
なりました☺



最初の5日間は大学で英語の授業を
受講しました。ペア・グループワークが
多い授業で、自分にとっていい刺激に
なりました！



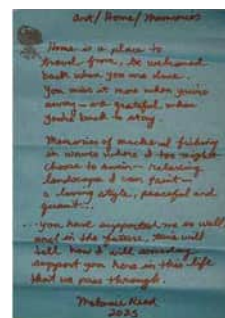
Memories of Seattle ! ②

2日目からはシアトルを観光しながら現地の人たちと交流して、英語力を高める
ことができました。



Memories of Seattle ! ③

私が最も印象に残ったことは現地の方に
詩を書いてもらったことです。
詩を書くために、現地の方が自分に
英語でいくつかの質問をしてきて...
本来なら答え方に悩むのですが
その時はスラスラと答えることができ
自分の成長を感じることができました。



シアトル研修で学んだこと・感想

私がシアトル研修で学んだことは、何事もやってみないと始まらないということです。私はシアトルに行く前、現地の方と上手にコミュニケーションをとることができるのかとても不安でした。しかし、現地で英語を使って話すということにトライすると、多少間違っても現地の方は理解してくれて、自分の英語力に対する自信ができました。

海外に研修に行くということは人生の中でも数少ない貴重な機会です。このシアトル研修で学んだことを将来に活かすことができるように、日々の生活を引き締めて過ごしたいなと思います。

シアトル語学研修



文化の違い

日本からアメリカに行って一番勉強になったのは様々な文化の違いです。

特に驚いた文化、生活の違いを3つ紹介します



チップとデジタル化

最初アメリカに着いて一番不安だったのはチップです。

チップとは店員などに渡す接客代のようなものです。

チップをどれくらい払えば良いのかなど不安でしたが、iPadが店に置いてありそこからボタンを押して払う方法の店が多くてとてもわかりやすかったです。

このようにアメリカに行ってデジタル化と文化の関わり方も感じました。



外国ならではのコミュニケーション

2つ目に紹介するのは海外のコミュニケーションです。

電車内では知らない人であろうが皆が楽しく世間話をしています。とても電車内は賑やかで日本では絶対にあり得ない景色です。

船ではその日誕生日の人の名前が放送されてみんなで歌ってお祝いするというものです。自分も実際に歌ってお祝いました。

これらはアメリカと日本の大きな違いです。

え?もうこんな時間!

これは、自分がアメリカに行って初めての夜に言った言葉です。

シアトルは午後8時に外を見ても余裕で明るいです。

さらには真夏なのに上着を着ないと外に出れないくらい寒いんです。このように、文化以外にも生活も変わってきます。個人的に日本の夏よりシアトルの夏の方が好きでした。



まとめ

自分はシアトルに行ってきたさまざまな文化の違い、生活の違いを学びました。

ここから学んだことは自分の自信に繋がったことはもちろんのこと、いつもとは全く違うところで生活するという経験から自己管理能力も上がったと思います。

こんなさせてくれた先生、ガイドの方々、両親に感謝して、学んだ経験をこれからの生活にどんどん活用してシアトルに行って良かったと一生言えるように努力していきたいです。最後にガイドさんに教えていただいた言葉の一つ、

「自分のできることを精一杯してください。自分からチャレンジしてください。諦めては行けません。」シアトル語学研修は一瞬でしたが濃い旅でした。



シアトルで学んだこと

印象に残っていること①

● ESLクラスを受講

- ・ ほぼ毎日、午前中に受けた授業
- ・ シアトルの観光地を調べた
- ・ カードゲーム、シアトルの地についてプレゼンテーションを行った



(ワシントン大学の写真)

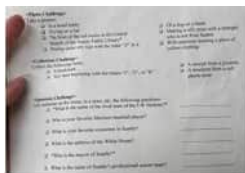
→講師の方がわかるように話して下さるので、**基礎的な英語力が上がった**

→アメリカでのマナーや文化など**知るべきことが知れた**

印象に残っていること②

● ダウンタウンでウォークラリー

- ・ 街の人に右の写真にある質問をした
- ・ ダウンタウンにあるお店を散策した



(行ったmissionsの写真)

→人に話しかけることで、英語以外に人として**自信がついた**

→緊張したが、他言語で人と会話するという**貴重な体験**ができた

印象に残っていること③

● Pike Place Marketで買い物

- ・ シアトルにある有名な市場
- ・ スターバックス本店やガムウォールがある
- ・ お土産を購入し、観光した



(上、ガムウォール下、スターバックス店の写真)

→コーヒーの試飲をしたり、定員さんと話したりして、シアトル観光を楽しみ、コミュニケーションが取れた。



学んだこと・感想

シアトルに行ったことで、自分に**自信をつけられた**。特に自信がつけられたと思ったのはウォークラリーをしたとき。快い会話のできたので自信がついた。またその際に、**英語の発音を意識**していたので、帰国してから発音を意識するきっかけになった。

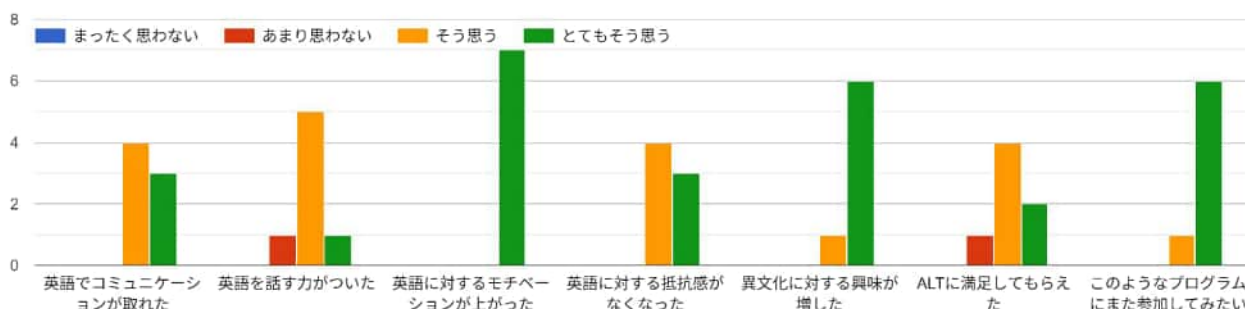
生まれて初めての海外旅行だったので不安な部分もあったけど、**楽しい観光**ができた。



国際交流バスツアーアンケート結果

11/18(土) プログラム参加生徒 21名 ALT 4名参加。ALT 1名につき生徒5~6名のグループで宇治散策

下記の質問に答えてください



【生徒アンケート結果】

■このプログラムで満足した点・良かった点を具体的に記述してください

- 英語のみで話すことで、コミュニケーション能力が高くなったと思っています。
- 篠山ではなく、少し離れた京都でのツアーをすることは、ALTの人と同じ立場にいて、いいと思います。"
- 気軽に話しかけられる環境だったのがよかった。会話表現を鍛えられるのがよかった。
- ただ目的もなく話すだけではなく、宇治の散策を通して日本文化という大きなテーマの中で話せたのが良かった。
- 自分の英語が拙くてもジェスチャーでなんとか伝えることができた時は嬉しかったです。ALTの先生に好きな食べ物とか京都について質問することができました。また日常的な会話を自然にすることができ国が違っていても盛り上がるのができて楽しめたのと英語を気軽に話せたので英語を話すことに対する抵抗を少し減らすことができ良かったです。
- グループで行き先を決める時にALTの先生にも参加してくれたから、より多く英語を話す機会があった。
- 自分はあんまり英語が得意じゃなくてコミュニケーション取れるか不安だったけど思ったよりいっぱい話せて楽しかったし、もっと勉強しようっていうモチベーションにもなったから参加してよかった。散策中に中国か台湾の女の子に話しかけられてその時相手は日本語喋れないし自分も中国語喋れなかったから翻訳で話したけど、インスタ交換して、今DMは英語で話せているから共通の言語ってやっぱり大事だなぁって思いました。
- 英語を喋る機会になったのがすごく良かったと思いました。せっかくだからとALTの先生とだけでなく生徒同士でも英語で話してみました。英語への抵抗感が減って良かったかなと思います。

■このプログラムの経験を今後どのように生かしていきたいですか

- 私は英語に関わる仕事に就きたいなと思っています。そのために、今のうちにできることは英検を取ることで、面接にこの経験を活かしたいです。
- 今後関わっていく外国人の人に自信を持って話しかけていきたい。
- このプログラムで付いた自信を元に、さらに沢山の方と喋ってみたい。
- 外国人の方と話すことはとても楽しいんだということに気づき、少し英語を話すことに抵抗がなくなってきました。これからはもっとALTの先生と会話して正確に相手に伝えられるように英語のスマールトークを磨いていきたいです。
- 外国人と話す時に、わからない言葉は聞き返して会話の質を高めたい
- 伝えたいことを伝える時文法は綺麗じゃなかったとしても単語さえ伝えたら理解してくれたし自分も単語を理解できたら相手の言っていることを聞き取れたから単語をもっと勉強したいと思いました。
- 英語力の向上に役立てていきたい。

■このプログラムで改善すべき点があれば具体的に記述して下さい

- 特にはないです。
- バスの移動時間中、席が変わらないのでALTと話せるのは限られた人になってしまう
- 特にはない。良かったです。
- バス座る時ALTと話せるのが最高でも2人だけだったからなにか改善できる方法があるならしたほうがいいと思いました。
- 昨年に比べてグループのメンバーが多くて、ALTとの会話量に偏りが出てしまい気も遣ってしまうのももう少しグループのメンバーは少人数が嬉しいなと思いました。



第Ⅳ部

教員研修の充実

(1) DX 機器の活用教員研修会

以下の3つのデジタルアプリケーション機器等において本校教員が指導者となり、活用方法について理解を深めた。探究活動におけるプロトタイプ作成のプロセスを体験しながら指導方法について理解を深めた。

① レーザー加工機

- ・レーザー加工機の基本的な使い方
- ・レーザー彫刻機能を活用し、オリジナルコースターを制作。



② 3D プリンター

- ・3D プリンターの仕組み
- ・3D モデリング制作 (TinkerCAD) : ネームプレート制作
- ・プリント方法など基本的な使い方



③ 動画作成研修会 (Adobe Premiere Pro)

- ・Adobe Creative Cloud の基本的な使い方
- ・Adobe Premiere Pro の使い方
- ・学校紹介動画の制作を通して一連の動作を体験



(2) プログラミング教育研修会 (プログラミングボード活用研修会) (株)AVAD

- ・プログラミングボードの仕組み
- ・プログラミングボードの使い方
- ・探究活動への活用

プログラミングが初めてであっても簡単に扱えるプログラミングボード「SPACEBLOCK」を使用したプログラミング体験と、探究活動への活用方法について理解を深めることができた。

(3) 探究教育研修会 (生成 AI 活用法)

株式会社 BYD 教育コンサルティング事業部プランナー 北田朋也 氏

- ・ 生成AIの仕組みと注意点
- ・ 生成AIの活用実例
- ・ 探究活動で使える生成AI
 - ア ChatGPT (Deep Research)
 - イ NotebookLM
 - ウ GAMMA

生徒が探究活動の中でスライド作成やまとめる部分に時間をかけ過ぎず、探究する部分にしっかり時間をかけることができるように生成 AI の注意点、活用法や指導方法について習得した。

令和7年度高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業

(文部科学省委託事業 新時代に対応した高等学校改革推進事業)

第1回 全国コーディネータープレ研修① 令和7年12月23日(火) 13:00~14:30 (オンライン)

テーマ「これからの教育に必要とされるコーディネーターとは」

講師：岡崎エミ氏（北海道安平町教育委員会事務局 子育て・教育総合専門官）

第2回 全国コーディネータープレ研修②

令和8年1月22日(木) 13:00~14:30 (オンライン)

テーマ「学校・地域の課題解決を進めるプロジェクトマネジメント」

講師：三浦祐子氏（(株)コパイロット/プロデューサー /プロジェクトマネージャー）ほか

第3回 全国コーディネータープレ研修③

令和8年2月24日(火) 13:00~17:00 (文部科学省)

テーマ「高校教育改革と高校コーディネーターのこれから」

主催：文部科学省 運営：(株)ソフィア 監修：一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム

13:00-13:15 開会挨拶・冒頭説明 山本文氏（文部科学省初等中等局 参事官(高校担当)付専門官）

13:15-13:30 基調講演「日本の高校教育のこれから」((一財)地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本悠氏)

13:30-14:15 パネルディスカッション「高校コーディネーターのこれから」

パネリスト：岩本悠氏、南友博先生（高知県立清水高校/主幹教諭➡教頭）、神宮一樹氏（秩父市総合政策部 総合政策課/高校魅力化コーディネーター）、森陽氏（長崎県教育庁 高校教育課 高校魅力化班/指導主事）、モデレーター：門脇亨平氏（合同会社 NOWA/代表）

14:30-16:30 高校コーディネータープレ研修③ ワークショップ「学びを加速するファシリテーションを理論と体感から学ぶ」(登壇者：認定NPO法人カタリバ ディレクター 横山和毅氏)

16:40-17:00 グループチェックアウト~クロージング



■本校における高校コーディネーター（非常勤）の役割と課題

1 勤務時間：原則として週2日、計6時間（「探究」学習のある火・水曜日が主）

2 職務内容：教育企画部の用務（下記①~④）、校外のステークホルダーへの訪問・広報

①「探究」活動の支援…講師・サポーターとの連絡・調整、授業時の生徒支援

※毎時の講師：野中康生氏（神戸大学大学院人文学研究科博士課程）ほか、本校OBなど2名

※「特別講座」の講師…「篠山城の歴史」古西遥奈氏（一般社団法人ウィズささやま 学芸員）

③諸会議…コンソーシアム委員会及び運営指導委員会の開催案内作成・出席、STEAM 探究委員会出席

④STEAM 探究科関連…外部講師による「特別講座」見学、外部講師による校内職員研修参加

3 次年度への課題：(1)コーディネーター（非常勤）廃止への対応、(2)「探究」講師・サポーターの確保



先進校(先進企業)視察報告書

1 訪問者

2 日時 令和7年8月19日

3 場所 マイドームおおさか(大阪市中央区本町橋2-5)

4 視察項目 経産省「探究・校務改革支援サービス体験会」への参加

5 視察内容

- ・ 講演会 細田 眞由美氏「民間企業・民間教育サービスが学校に入る意義」
- ・ 各民間企業のブースにて、ICT等を用いた探究・校務改革支援サービスの体験

6 本校への還元

おもに次の点について、民間企業が提供するサービスを用いることで、本校における探究学習がより促進されると考える。

- ・ AIを用いて、生徒の探究の成果に対するフィードバックを返すことができるサービス
…探究の指導方法について困難を感じている教員が一定数いる中で、AIのフィードバックを参考にして教員が生徒の状況に応じた指導を行うことで、より質の高い探究の指導が可能になると考える。
- ・ 探究のプロセスを一通り体験することができるプログラムを提供しているサービス
…1年次1学期に行っている「ミニ探究」で活用したい。

先進校(先進企業)視察報告書

1 訪問者

2 日時 令和8年1月26日

3 場所 追手門学院中・高等学校

4 視察項目

- 「探究科」の理念と実践、カリキュラム開発までの道のり、授業の様子
- 「デザイン思考」を取り入れた授業のあり方とその成果
- 探究におけるA（アート）の位置づけ
- 探究に関する校内体制（教員配置など組織体制、探究に携わる教員への研修等）

5 視察内容

- 視察校では、「生徒一人ひとりが幸せで豊かな人生を送ること」を教育の最上位目標とし、**その理念が授業実践にまで一貫して反映されていた**。体験的・探究的な学びやリフレクションを通して、自己理解と行動変容を促す学びが体系的に設計されていた。
- 経験と知識を往還させる学びを重視し、「本物に触れる・五感で知る学習」によって生徒の視野を広げ、自ら問いを立て対話を通して考え、選択する学習活動を学校全体で位置づけていた。
- 教員は、結果や結論の伝達を重視する「ティーチング型」ではなく、傾聴や問いを通して学びのプロセスを支える「コーチング型」のスタンスをとっていた。
- 学校現場の探究は、「課題解決型」「モノづくり型」「学問探究型」に大別され、それぞれ育成される力が異なることが整理されていた。

6 本校への還元

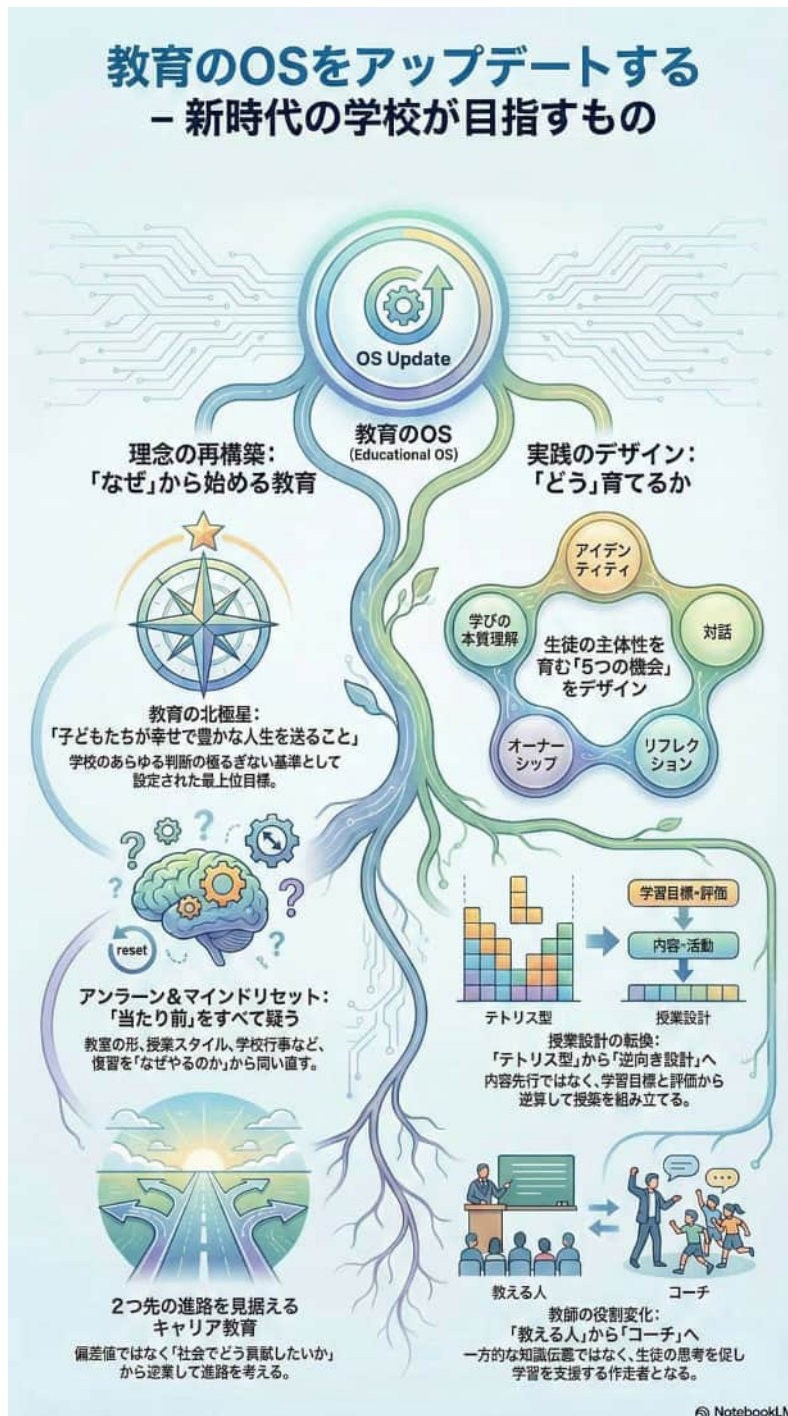
- 本校の教育理念・育成したい力を改めて解釈・具体化し、理念と実践をより強く結び付ける必要性を感じた。また、**そのための教職員間の対話の場が必要**である。
- 本校教育理念、STEAM 探究科ロジックモデルに照らし、本校では「課題解決型」「モノづくり型」「学問探究型」のうちどのアプローチをとるのかについて検討が必要である。



1 年生、総合的な探究の時間。自分を表す仮面を段ボールで制作。「自分を知る」活動の一環。「言語化」ではなく「アート」でアウトプットすることで、成果物＝「評価対象」という意識を薄めるねらいもある。



2 年生、総合的な探究の時間。「デザイン思考」を学ぶ授業。身の回りにある「困りごと」を見つけ、改善していくための試作品をガムテープで作成。デザインの意図等を CM にして発表。



解説動画 (NotebookLM で作成)



先進校(先進企業)視察報告書

1 訪問者

2 日時 令和8年2月5日(木)

3 場所 アクリエひめじ(兵庫県姫路市神屋町143-2)(姫路飾西高等学校)

4 視察項目「探究成果発表会」への参加

5 視察内容

- ・ 探究活動成果発表(1・2年 STEAM 探究科・普通科)
「ステージ発表・スライド発表・ポスター発表」

6 本校への還元

以下の点が、本校における探究学習の改善に参考になることである。

- ・ 1年生は1学期は、興味・関心を元に個人で探究活動を進めている。一通り流れを体験しながら、2年生でのグループ発表ができるように準備を進めていく。客観的なデータ分析が甘い部分もあるが、身近な疑問を大切に研究が多く、生徒が生き生きと楽しそうに発表していたのが印象的だった。2年生の発表内容は、自分たちの実現したいことに協力してくれる外部の企業・教授と共に、実験・検証を行っていた。一見関係なさそうなものと組み合わせて、セレンディピティ的な結論を提示する内容が多く、新たな価値を生み出すことを目標とする本校の探究活動とリンクする部分が多いと感じた。
- ・ 発表者は、原稿だけに視線を向けるだけでなく、聴衆に向けてしっかり自分の言葉で話している。聴衆からは、発表に対して必ず質問があった。(割り当てではない)双方のやり取りも非常に丁寧で、質疑応答が発表後の探究活動の質を上げていくことを認識している様子でした。
- ・ 教員は、生徒の発想を大事にしながらかみ走していく指導方針。



先進校(先進企業)視察報告

1 訪問者

2 日時 令和8年2月7日

3 場所 兵庫県立豊岡高等学校

4 視察項目

「豊高アカデミア～探究・共創探究発表会～」の視察

5 視察内容

- ポスター発表
- 教員交流研修会(「探究の視点を取り入れた授業デザイン」)
- 口頭発表

6 本校への還元

探究のプロセスについて

- 共創探究…実験方法が非常に緻密。実験の計画を立てる際、①担当の先生の助言、②中学理科の知識、③担当じゃない先生からの助言を役立たせて計画を立てたと、生徒たち本人が話していた。
- 「ご質問、ありがとうございます。」これは全員言っている。意識の違い?事前教育?「画面共有させていただきます」など、発表練習はちゃんとやっている。
- 多くの生徒が、仮説の検証方法について、「なぜそのように定義したのか」「なぜその方法で検証すればいいと考えたのか」を論理的に説明できている。
- 2年生はどの班も、探究のサイクルを2周以上まわしている。

- 担当の先生以外の先生から助言をもらう機会の確保
- 発表練習の時間はしっかりとる
- 「なぜ」を生徒に問いかけながら探究の伴走をする
- 「論理的思考力」など、“探究のベースになる能力”が必要だが、探究の時間だけでは育たない⇒教科指導が重要。

探究の方向性について

- 自分自身の疑問から課題設定をしている。
- STEAM探究科の探究(共創探究Ⅰ・Ⅱ)は、社会課題ではなく学問的な問いに対する探究活動がメイン。
- 1年生STEAM探究科、1年生でもかなり高度な探究ができています。理系的、学問的な探究が多い。理系的な研究でも、地理的な要素が入っていたりと、ちゃんと教科横断的になっている。
- 普通科の探究は、自分自身の興味や関心をテーマにした探究が多い。(テーマは、今の鳳鳴普通科の生徒たちの探究テーマと似ている)。

「学問探究」・「社会課題解決」・「ものづくり」のどの方向性を重視するかで、鳳鳴の探究の特色を出せるかもしれない。

発表会における、聴き手の生徒⇒発表者への質問について

- ポスターセッションでの質問は、各発表に対して生徒から1~2つだった。
- 質問が出るまでの待ち時間が長い。無言の時間がかなり続く。
- 【バズセッションを設ける】…近くの人と意見交換や質問を考える時間を設けている。ポスター発表ではある程度効果的だったかもしれない。しかしスライド発表はバズセッションを挟んでも生徒からの質問はほとんど出なかった。
→スライド発表での質問の無さは、別の要因かもしれない。
- スライド発表は質問しにくい雰囲気があった。活発に質問が出ているとは言えない。時間が短いのもあるが、各発表に対して生徒からの質問はほとんどない。(スライド発表5回中、生徒からの質問が出たのは1回だけだった。)
- 「質問しなければいけない」という外発的動機づけは必要。(理想ではないが、豊岡高校でも内発的動機だけでは質問は出なかった。)

発表会における質問や意見交換の活発化について
…質問しやすい環境のデザインに加えて、「外発的動機づけ」も必要かもしれない。(「レポートを出さないといけない」など)



創立者 青山忠誠(1859-1887)による揮毫。
私立篠山中年学舎の創設以来の建学の精神
は、『一貫之』(一以てこれを貫く)である。
一生涯を通じて真心や思いやりの心を大切に
した生き方を貫くという志を表している。

2025年度(令和7年度)

「文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)」事業報告書

発行日 2026年(令和8年)3月27日

発行者 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校

〒669-2318 兵庫県丹波篠山市大熊369

TEL 079-552-0047 FAX 079-552-0653